

矢高同窓会報

発行所
岡山県小田郡矢掛町
岡山県立矢掛高等学校
同窓会
電話 (0866) 82-0045
82-0054
編集兼発行人
同窓会事務局
印刷所
有限会社あさひ印刷所

矢高生の成長は

矢掛町の魅力化に繋がっています

矢掛高等学校同窓会副会長

梶 崎 裕 志
(昭和41年卒)



これは毎月発行される「広報やかげ」の裏表紙にある「矢高にロックオン」にあることです。

矢掛高校に学ぶ生徒が「矢掛高校に来てよかった!」と思えること、そして矢掛町民が「矢掛高校があつてよかった!」と思える手助けをすることだと思っています。

まさに今の矢掛高校のあり方を示していると思います。矢掛高校と地域と行政が手を取り合いスクラムを組むことで高校の魅力化、矢掛町の発展に繋がっています。県内の多くの高等学校が定員割れなどの課題を抱えています。でも少子化や人口減などは矢掛高校、矢掛町だけで解決できる課題ではありません。今同窓会としてできることは、

今年と同窓会総会は地元矢掛で計画されています。今までは倉敷のホテルで開催することで会場の準備等はすべてしてもらったのですが、今年の幹事さんは大変なことは承知の上であえて矢掛での開催を決めました。それは「母校矢掛高校を身近に感じてほしい」「発展進化する矢掛の街を見てほしい」「矢掛高校を応援してくれる商店街の人に少しでも恩返しをしたい」

などいろいろな熱い思いからだと思いました。「同窓会をするのならいくらかでも協力するよ」というてくれた商店街の人の声が決め手になったとも聞きました。こうした声を掛けてもらえるのは「やかげ学」をはじめとする高校生の日頃からの活動、そして矢掛高校の存在が矢掛町の発展には欠くことができないものであることの証だと思っています。

昨年度矢掛町と矢掛高校で結んだ包括協定にある「若者世代のまちづくりへの参画」の場を計画したり提供したりすること、そして若者のアイデアや発想から学び、私たち卒業生が矢掛町だけでなく、今自分の住んでい

る地域で元気に活動することが同窓会の発展・充実に繋がるものだと思います。なお7年間続いた池田会長・藤原副会長・雛元副会長そして梶崎の体制は辞任し、新しい会長、

歴史と伝統のある

矢掛高等学校に赴任して

校長 藤 原 修



同窓会会員の皆様におかれましては、各方面で益々御活躍のことと、お喜び申し上げます。

私は、本年度4月の人事異動で歴史と伝統のある矢掛高等学校に赴任いたしました。

岡山県の職員ではありますが、倉敷以西への赴任は初めてで、恥ずかしながら知らないことが多く、皆様に聞きながら勉強しております。

本年度5月17日(土)に東京千代田区丸の内にお

副会長でスタートします。皆様の今までのご協力に感謝します。そして今後新しい会長、副会長のもとより一層活力のある矢掛高校そして矢掛高校同窓会となることを信じています。

きまして、矢掛高等学校関東支部同窓会が開催され、新任校長として私も参加いたしました。支部長の木口利男様をはじめ関東にお住まいの方々と交流させていただきました。現在の岡山県の教育や矢掛高等学校の状況をお伝えしました。皆様には、一つひとつの事柄に関心を持っていただき、故郷矢掛への熱い思いを感じました。反対に、東京という都会の教育事情なども教えていただき、岡山との違いに驚きました。短い時間はあっという間に過ぎてしまいました。同窓会は大変楽しく、心温まる機会でありました。

また、矢掛高等学校だけでなく思われるのですが、矢掛町役場に同窓会支部があることも驚かされました。5月7日(水)と8月12日(火)に役場支部総会が開催され、8月は欠席してしまいました。5月には挨拶をさせていただきました。後述べる矢掛町の厚い支援の源である役場支部の皆様にも感謝申し上げます。

矢掛高等学校の長い歴史において、この10年間は、大きな変動の期間となっていることに気づか

同じく6月1日(日)には、総社市国民宿舎サンロード吉備路におきまして、倉敷たかつま会総会が開催されました。関東支部同様に、新任校長として参加させていただきました。会長の中西章様をはじめ、主に倉敷市そして矢掛町にお住まいの方々の総会、懇親会は本当に和気あいあいとした雰囲気となりました。今まで

経験した同窓会と違い、懇親会ではクイズやカラオケがあり、驚きながらも本当に楽しいひと時を過ごさせていただきました。

されます。かつての学校には、経済成長という社会全体の方向性があり、知識の効率的な伝達が最優先され、誰もが同じ方向を目指すことに疑いがありました。このシステムは、経済発展の原動力となりましたが、社会を取り巻く情勢は激しい勢いで様変わりし、多様性の時代に対応する現代では、家庭や学校、地域で教育に対する改革も急務の課題となりました。

岡山県内においては、岡山市、倉敷市以外の地域では、少子化の影響から、多くの高等学校が定員割れの状況となっており、長期的な展望に立つたうえで魅力ある学校づくり、地域との連携に基づく開かれた学校づくりが求められ、2校あるいは3校を再編整備する動きが具体化している地域もあります。

本校卒業生でもある高月秀人前校長は、6年にわたる校長在勤中、常に本校の今後の方向性や在るべき姿について考えておられ、次のように述べられています。

「全国、そして全県的な少子化の流れの中で、特に本校の位置する県南西地区は、その傾向が顕著であり、その流れの中ではどのように努力しても、生徒数の減少はある程度仕方がないものであると感じています。そのこと自体は、怖くはありません。それよりも矢掛高等学校という、120年以上に渡って矢掛町を中心とした地域に位置する、いわば人材育成のための公的教育機関が地域の活性化に寄与し、地域に必要とされる存在であり続けることが本校のアイデンティティ、つまり存在意義であると考えます。ですから、この公的教育機関の存在意義の重要性が生徒、保護者、同窓生、そして地域の方々

に正しく認識されなくなることや、校長として、同窓生として、そして矢掛町民として強く懸念しております。」

私も、微力ながら矢掛高等学校のこれからの存在意義や伝統を紡いでこられた諸先生方、同窓生の皆様の熱い思いを継承し、少しでも発展できる

ように日々努めてまいりたいと思います。

本校も昨年度から新たな県の研究指定を受け、『高校コーディネーターによる高校と地域の連携・協働推進事業』（重点推進校）に取り組んでおりますが、「学校の魅力化」のための取組とともに「確固とした地域連携の組織づくり」にも重点を置いた「やかげ学」を中心とした様々な実践の過程で、矢掛町及び地域の方々に

勇氏による本校生徒への防災等を含む講演会の実施」他、「矢掛高校石垣等保全事業」や入学時の制服購入費補助・公共交通機関を利用する通学生徒への通学費補助等、多くの御支援をいただいております。

新しい取り組みとして、教育課程の見直しや「やかげ学」のブラッシュアップを図り、令和8年度から、探究（研究）をさらに深めるため「シン・やかげ学」としてスタートするプロジェクトを進めています。本校が長く築き上げてきた「授業を大切にする」理念を継承し、「個人の魅力を地域と共に見つけて」、「社会に役立つ人材の育成」に努めながら、今まで以上に地域及び各種関係機関との連携を深化させ、矢掛高等学校が、地域活性化の一翼を担える、地域になくてはならない存在へと更なる成長を遂げるべく、教職員、生徒、保護者の皆様、同窓会の皆様、地域の方々と共に鋭意邁進していききたいと思

います。

同窓会の皆様には、今

第38回

倉敷たかつま会

総会

令和7年6月1日

倉敷支部長 中西章

(昭和41年卒)

後とも温かい御支援と御協力をよろしくお願いいたします。

手できます」
とここで「あだち幸」さんを御存知でしょうか。矢高昭和38年卒、小田郡美星町出身です（井原市に持つて行かれましたが）。日本で唯一の友禅画家、絹地に友禅染の技法で、幻想的な仏・わらべ・鬼等の作品を創られています。

壬生寺・唐招提寺にも納められています。個展も各地で開かれており、岡山の時は作品集も買わせていただきました。

「在学中は、矢高の裏の家に下宿していました」「あだち幸」で検索して見て下さい。



第38回倉敷たかつま会総会令和7年6月1日
国民宿舎「サンロード吉備路」にて

矢掛高校同窓会 あれこれ

令和7年度

関東支部 総会

令和7年
5月17日

関東支部事務局長 小門謙

(昭和45年卒)



藤原校長挨拶風景

矢掛高校同窓会関東支部では、2025年5月17日(土)12時から、東天紅国際フォーラム店において、総会及び懇親会を開催しました。昨年、同窓会を昼間の開催に変えたことで参加者の増加には繋がりましたが、平日のため現役世代のOBが参加しにくかったことを踏まえ、今年度は土曜日昼間の開催といたしました。その結果、支部会員参加者は41名となりました。総会は、物故者への黙

待から始まり、池田道孝会長から、旧制矢掛中学時代の面影を伝える「矢掛高明治記念館」が山陽新聞で掲載されたこと、母校のシンボルである高校南側の石垣・塀・瓦は、従来の「石積み工法」で対応することなどの報告がありました。また、来賓の山岡敦町長からは、高月秀人前校長を新たに学校地域連携推進監として町の組織に招聘したこと、矢掛町が駅名ネーミングライツで井原線矢掛駅の呼称を取得し、矢掛駅改称「矢掛高校前」としたこと、「やかげ小田川・嵐山かわまちキャンプ場事業」は株式会社モンベルホールディングスが受託し、竣工後は、同施設を起点とした周辺へのツーリング基地としての機能も期待している



今回最大勢力の昭和45年卒業組

ことなどのご説明をいただきました。新任の藤原修校長には、本年度の進学実績は前年度同様満足のいく進学実績を実現したこと、矢掛高校も少子化の波を受け、定員割れが継続し、現状何とか4クラスを維持しているが、高校の存続には赤信号が点灯しており、県との継続協議も最重要事項となっていること、「矢掛町と矢掛高校との連携協力に関する包括協定」締結に伴い、地域との連携が強化され、やかげ学の推進、矢中・矢高合同部活動の開始などが重要なテーマとなったことの報告がありました。



会場の風景

懇親会では、乾杯のご発声に参加者の最年長、小出昌成さん(昭和27年卒)に務めていただきました。参加者の皆さんがそれぞれ丸テーブルを囲んで、時間がたつのも忘れて矢高時代の思い出や友人の消息などを語り合っていました。矢掛町長からは、今年も懐かしい故郷の味のお土産をいただきました。

今後は、矢掛高校同窓会関東支部では、岡山県高校同窓会在京連絡協議会と連携し、他校の状況を参考にしながら、参加者拡大に向けて、多様な取り組みを進めていきます。

最後に、同窓会開催にご協力いただいた同窓生、矢掛高校教職員の方々、矢掛町及びすべての皆様に幹事一同、深く感謝申し上げます。

最後に、同窓会開催にご協力いただいた同窓生、矢掛高校教職員の方々、矢掛町及びすべての皆様に幹事一同、深く感謝申し上げます。

矢掛高等学校・旧矢掛中学校・旧矢掛高等女学校同窓会が、令和6年11月4日(月・祝)「倉敷アイビースクエア・エメラルドホール」にて池田会長をはじめ、147名の同窓生が参加し盛大に開催されました。今年度は、昭和48年卒業生が中心幹事で昭和38年から令和5年の卒業生(10年単位)が幹事となり準備を行ってきました。矢掛高校の同窓会については、あまり関心はなかったものの10年前に、岡山市の「ピアリエイマきび」で行われた同窓会に誘われ出席、先輩方の活動を知り得て、10年後のことをイメージした瞬間でした。光陰矢の如し、我が学年が中心に動く時がやってきました。しかし、わからないことばかりで、昨年度計画実施された昭

令和6年度

同窓会総会

幹事団より

幹事長 岡本達也

(昭和48年卒)

矢掛高等学校・旧矢掛

中学校・旧矢掛高等女学

校同窓会が、令和6年11

月4日(月・祝)「倉敷

アイビースクエア・エメ

ラルドホール」にて池田

会長をはじめ、147名

の同窓生が参加し盛大に

開催されました。今年度

は、昭和48年卒業生が中

心幹事で昭和38年から令

和5年の卒業生(10年単

位)が幹事となり準備を

行ってきました。矢掛高

校の同窓会については、

あまり関心はなかったも

の10年前に、岡山市の

「ピアリエイマきび」で

行われた同窓会に誘われ

出席、先輩方の活動を知

り得て、10年後のことを

イメージした瞬間でした。

光陰矢の如し、我が学年

が中心に動く時がやつ

てきました。しかし、わ

からないことばかりで、

昨年度計画実施された昭

和47年度卒業生の実績そ

のままを今年度にといた

くことにしました。同窓

会・懇親会の中心幹事が

本格的に議論したのが2

年前、当初は、昭和47年

の幹事団会議に同席した

り10年毎の代表者選定か

ら連絡、実施計画の策定

等、特に幹事団が同じ目

的を確認するまでが苦慮

したところでもありまし

た。しかし、動きだした

らいろいろなアイデアが

出てスムーズに進み、い

よいよ当日です。受付を

する前からも同窓会ト

クで盛り上がっていました。

総会の始まりは、物

故者に対して黙祷です。

亡くなられた同級生の顔

が次々と浮かびました。

引き続き矢掛高等学校同

窓会会長の池田道孝様よ

り、同窓会の様子等を紹

介され、次に昭和48年度

幹事代表の三宅亮三氏よ

り歓迎の挨拶がありました。引き続き、矢掛高等学校の校歌斉唱です。懐かしい「お〜お〜ともに遊ばん若き日を」のフレーズは未だに残っていました。高月秀人矢掛高等学校長より、矢掛高校の近況と矢掛町と矢掛高校との連携協定に関する包括協定の話をされました。以前から矢掛町と矢掛高校が連携して地域の活性化や矢掛高等学校の魅力向上に向けての連携をさらに深めようと協定を結びました。具体的には生徒たちが町の活性化や課題解決に向けてできることを主体的に提案したり、町が制服代や通学費などの補助をして、教育環境の整備をしたりする

る取組をさらに進めることにしているとのことでした。会は順調に進み、池田会長が議長となり令和5年度の事業報告及び決算報告、役員の交代の報告がありました。令和6年度事業計画(案)及び予算(案)の審議となり満場一致で承認されました。次に功労者表彰です。

この表彰は矢掛高等学校同窓会の目的に照らして格別の功労や功績等模範となる行為を行った個人や団体に贈るもので、今年度の被表彰者は、長年支部をけん引されて昨年度末で支部長を退任された昭和36年卒業、関東支部長石井祥一郎氏と昭和



掛の映像を見て懐かしがって見入る人が多くいました。矢掛町ホームページから視聴できます。いよいよ懇親会です。同窓会役場支部長の山岡敦町長の御発声で乾杯が行われました。矢掛高

校より「矢掛高校魅力化推進事業」(前述)「矢高応援団」(矢高祭や活動発表、キャリア教育など、生徒たちが取り組む様々な活動を「ちょこつとお手伝い」してくれる仲間の募集)の説明がありました。久しぶりに会う同級生と会話が弾み同窓会独特の雰囲気が見ら

れました。アイビースクエアといえば料理です。食事を目当てに女子会などよく利用されるとのこと、次々と出される旬の幸を楽しみながら酒宴は続きました。会の途中で昭和48年卒業佐藤玄吾氏によるオカリナの演奏が飛び入りで会を盛り上げてくれました。次に、今回参加されました最年長の田岡雅興子様(昭和32年卒業、倉敷支部事務局長)に花束の贈呈が池田会長よりありました。田岡様より感謝のコメントがあり、会も終盤となり「お楽しみ抽選会」を行いました。景品は、矢

掛町の特産品を中心に集め、その中で矢掛町にある障がいのある人の事業所で生産しているものを景品にしました、当たって喜んでいる人、当たらなくて残念がっている人、景品を交換している人など、いろいろな光景を見ることができました。次年



お楽しみ抽選会に協力してくれた事業所の人、その他見えないところで協力してくれた人に対して感謝です。今回、いろいろな理由で来ることができなかった同窓生に対して「いつぺん来てみられ」と声掛けしようと思っています。これからも矢掛高等学校同窓会と同窓生、矢掛高校の益々の発展を祈念して締め括ろうと思います。ありがとうございます。



39年卒業、倉敷支部長土師真一氏が表彰されました。以上で同窓会総会は終了となり次に懇親会です。懇親会までの休憩時に矢掛町合併70周年記念プロモーションムービーがありました。矢掛町の名所旧跡が流れ、特産品とともに優しい矢掛町民が映し出され、矢

掛の映像を見て懐かしがって見入る人が多くいました。矢掛町ホームページから視聴できます。いよいよ懇親会です。同窓会役場支部長の山岡敦町長の御発声で乾杯が行われました。矢掛高



度を中心幹事の昭和49年卒代表の山岡誠二氏より来年度開催の意気込みが伝わる挨拶があり、閉会の挨拶では昭和48年卒業の杉本秀樹氏より今回協力していただいた関係者に感謝を伝え、矢掛高校の益々の発展と同窓生の健康を祈念し万歳を三唱して会は無事終了しました。話は尽きることなく、そのまま二次会へ移動した学年もあったとのこと。反省点は多々あるにせよ無事終了して安堵しました。終わってしまった後は思い出、協力してくれた学年の人や同窓会幹部並びに矢掛高校の校長をはじめ同窓会担当職員、アイビースクエア担当者、



令和7年

卒業生より

長い人生のために

東山 実央 (令和7年卒)

私が言いたいことは、「高校ではどんな教科も真剣に勉強した方がよい」ということです。いくつか高校卒業後の体験を紹介します。

4月に大阪天満宮に行きました。大阪天満宮には菅原道真が祀られています。私は日本史を学んでいたのですが、道真について学んだことを思い出していました。そうしていると、道真が国政の中心で活躍していた頃の他の人物の動きなど時代背景がどんどん思い起こされて、大阪天満宮を深く楽しむことができました。

このような「高校の勉強って大切なな」と思っていた体験をもうひとつ紹介します。

ユーチューブを観ていた時のこと。内容は忘れましたが、とある動画を観てその動画のコメント欄を開くと、一番高評価

のコメントが、「なんか李徴みたい」でした。

李徴とは、文学国語という科目で習う『山月記』の主人公。

国語を真面目に勉強していないとコメントの意味が理解できないはず。高校での勉強が、面白いコメントを書くのに役立つこともあるんです。

高校の勉強は、人生をより豊かに楽しくするための鍵のひとつになるのだと、高校を卒業してから改めて気付きました。

ただ、正直なところ、私が思う高校の時に真剣に勉強した方がいい一番の理由は、「後の人生で後悔しないため」です。

実生活の中で、「もっと勉強しておけばよかった」と思う時は多々あります。

好きな芸能人のインスタグラムを投稿を見ていた時のこと。その人は毎

回英語で投稿文を書いているのですが、ある日、「Reflecting something I can't name it.」という英文の投稿がありました。あとからネット上で他の人が指摘して気付いたのですが、実は、その英文のitは必要ないのです。私は全く気付かなかったし、何ならreflectの意味がわからず：

高校の時に英語の勉強をサボったツケが回ってきました。毎日の英単語テスト、真面目に取り組んだことはなかったです：

数学でもそういう後悔があります。知り合いと話している時、その知り合いが、「微分・積分なんか習ってないからわからんわあ」と。自分は微分・積分を習ったのに、どんなのだったか覚えておらず、高校の数学をちゃんと勉強してこなかったの、「私は微分・積分分かるよ」なんて言えません。

私は文系だったし、高3になるとそう簡単に点数が取れない数学の勉強に時間を掛けるのは無駄だと思って、数学の勉強はほとんど手を抜いていた。

ました。今となつては、数学ももっと真面目に勉強しておけばよかった。

高校の勉強は進学のためにしか役に立たないと思う人は多いはずですが、でも、意外な所で勉強したことが活かされる時があるのです。

何より、高校を卒業した後の長い人生で、「もっと勉強しておけばよかった」と後悔しないため

やかげ小唄おどりを通して

橋本 歩 果 (令和7年卒)

私が高校生活の中で一番印象に残っていることは、「やかげ小唄おどり」について探究活動を行ったことである。

私自身、高校1年生の時からそれに参加しており、その踊りや曲の美しさに興味を持ったのがきっかけである。中学生の時の地域活動は、先生が活動の内容を決め、あらかじめ企業や団体にアポイントメントを取ってくれていた。しかし、高校からは、自分の興味のある分野に、自分で取材交渉をする必要があった。私にとつては初めての経

験で、ものすごく緊張しながら電話をかけたのを今でも覚えている。なんとか無事にお話を聞き終え、次は今ある課題を掘り下げ、どう対処していくかという作業に取り掛かった。その中でも特に私が解決させたいと思っ

たのは、中高生の参加が少ない、という問題である。参加者の大半を高齢者が占めており、その方々が引退するとなると踊りの存続が危うくなる。矢掛の伝統を守っていくためには若者の参加が必要であると感じた。

そのために、まずは身近な友達に参加してみないか、と呼びかけた。しかし、小唄おどりについてよく知らないといった意見や難しそうであるといった意見がでて、参加に興味を示した人が少なかった。そのような人たちに参加してもらうには、小唄おどりに慣れ親しんでもらう必要があると感じた。そこで、私は高校の授業等で小唄おどりを体験できる機会を作り、友達と一緒に楽しみながら踊れるような案を出した。私が在学しているときまでにその実現は叶わなかったが、このように自分の地元のためにいろいろ考えて、試行錯誤することは自分の中で大きな良い経験であった。

この活動は計画的に行動できず、うまくいかないことも多かった。しかし、現在、大学で地域の課題について取り組める講義を取っているため、高校での経験を活かして、よりよい解決案を練って、実現させていきたいと思う。



事務局より

一、同窓会常任幹事会について
令和7年7月19日(出)、本校高妻会館において常任幹事会が開催され、次の7件について協議された。

(一) 役員の交代について

令和6年度事業報告及び会計決算について
令和7年度事業計画及び会計予算について
同窓会関係内規改定について

(二) 被表彰者について

令和7年度同窓会総会について
令和8年度同窓会総会の幹事団について
これに関わって説明する

(一) 役員の交代について (敬称略)

1. 会長

(退任) 池田 道孝 (昭40卒)
(新任) 渡辺 求 (昭49卒)

2. 副会長

(退任) 橋崎 裕志 (昭41卒)
(退任) 藤原 立志 (昭46卒)
(退任) 藤元 孝子 (昭49卒)
(新任) 雛元 孝子 (昭53卒)
(新任) 田賀 辰也 (昭55卒)
(新任) 高月 秀人 (昭55卒)
(新任) 大野 亜希子 (昭55卒)

3. (新任) 矢掛支部長
(退任) 石井 元一郎 (昭49卒)
(新任) 立間 庄二 (昭49卒)

4. (退任) 高月 憲二郎 (昭50卒)
(新任) 武井 澄雄 (昭50卒)

(退任) 高月 憲二郎 (昭50卒)
(新任) 武井 澄雄 (昭50卒)

(退任) 高月 憲二郎 (昭50卒)
(新任) 武井 澄雄 (昭50卒)

(退任) 高月 憲二郎 (昭50卒)
(新任) 武井 澄雄 (昭50卒)

(退任) 高月 憲二郎 (昭50卒)
(新任) 武井 澄雄 (昭50卒)

(退任) 高月 憲二郎 (昭50卒)
(新任) 武井 澄雄 (昭50卒)

(退任) 高月 憲二郎 (昭50卒)
(新任) 武井 澄雄 (昭50卒)

(退任) 高月 憲二郎 (昭50卒)
(新任) 武井 澄雄 (昭50卒)

(退任) 高月 憲二郎 (昭50卒)
(新任) 武井 澄雄 (昭50卒)

(退任) 高月 憲二郎 (昭50卒)
(新任) 武井 澄雄 (昭50卒)

(退任) 高月 憲二郎 (昭50卒)
(新任) 武井 澄雄 (昭50卒)

令和6年度 事業報告

月 日	事 業 内 容 (※印は支部活動・その他)
5月15日(水)	第1回 同窓会総会準備委員会 (矢掛高校)
5月17日(金)	※関東支部総会 於：東天紅東京国際フォーラム店、47名
6月 2日(日)	※第37回倉敷たかつま会総会 於：サンロード吉備路、24名
6月15日(土)	第1回 拡大準備委員会 於：農村環境改善センター
7月 5日(金)	会計監査委員会 於：本校応接室
7月 9日(火)	第2回 同窓会総会準備委員会 於：本校高妻会館1階
7月20日(土)	同窓会常任幹事会 於：本校高妻会館1階
8月 2日(金)	第2回 拡大準備委員会 於：農村環境改善センター
10月21日(月)	第3回 拡大準備委員会 於：農村環境改善センター
11月 4日(月)祝	同窓会報第51号発刊 同窓会総会 於：倉敷アイビースクエア(エメラルドホール)、147名
2月28日(金)	同窓会入会式 於：本校 入会者：89名
3月27日(木)	「伸びる・伸ばす矢高奨学金」授与式 4名

令和6年度 同窓会会計決算書

項 目	予 算 額	収入済額	比較増減	摘 要
入会金	540,000	534,000	△6,000	@6,000円×89人 令和7年3月卒業生数
寄付金	0	547,851	547,851	令和6年度同窓会総会幹事団から
雑収入	811	691	△120	普通預金、積立定期預金利息
繰越金	1,395,189	1,395,189	0	前年度繰越金
合 計	1,936,000	2,477,731	541,731	

項 目	予 算 額	支出済額	差引残高	摘 要
会議費	15,000	1,876	13,124	常任幹事会
総会費	150,000	150,000	0	総会準備金(令和6年度同窓会総会幹事団へ)
通信費	70,000	15,738	54,262	切手、葉書
旅 費	150,000	42,395	107,605	関東支部総会参加
領受管理費	66,000	66,000	0	(株)広済堂ネクストへ
渉外費	100,000	0	100,000	
備品費	0	0	0	
需用費	250,000	190,390	59,610	会報印刷、卒業記念品(印鑑)、振替手数料等
慶弔費	50,000	22,550	27,450	表彰者記念品(備前焼)
母校援助費	50,000	0	50,000	
積立金	300,000	300,000	0	新規積立定期預金(同窓会積立金会計へ)
備 費	735,000	418,960	316,040	
合 計	1,936,000	1,207,909	728,091	

(収入総額) 2,477,731円－(支出総額) 1,207,909円＝(次年度繰越額) 1,269,822円

令和6年度 岡山県立矢掛高等学校教育振興会

項 目	金 額	備 考
前年度残金	513,622	
利 息	71	
寄 付 金	418,960	同窓会会計から繰入
合 計	932,653	

項 目	金 額	備 考
伸びる・伸ばす矢高奨学金	400,000	10万円×4名
合 計	400,000	

(収入済額) 932,653円－(支出済額) 400,000円＝(次年度繰越額) 532,653円
残金 532,653円を次年度へ繰り越す

令和7年度 事業計画

月 日	事 業 内 容 (※印は支部活動・その他)
5月17日(土)	※関東支部総会 於：東天紅東京国際フォーラム店、46名
6月 1日(日)	※第38回倉敷たかつま会総会 於：サンロード吉備路、25名
6月 8日(日)	第1回 同窓会総会準備委員会
6月30日(月)	会計監査委員会 於：本校応接室
7月19日(土)	同窓会常任幹事会 於：本校高妻会館1階
8月 日()	第2回 同窓会総会準備委員会
9月 日()	第3回 同窓会総会準備委員会
10月 日()	第4回 同窓会総会準備委員会
11月 3日(月)祝	同窓会報第52号発刊 同窓会総会 於：農村環境改善センター
2月28日(土)	同窓会入会式 於：本校 入会予定者：81名
3月 日()	「伸びる・伸ばす矢高奨学金」授与式

令和7年度 同窓会会計予算書(案)

項 目	令和7年度予算額	令和6年度予算額	比較増減	摘 要
入会金	486,000	540,000	△54,000	@6,000円×81人(R8年3月卒業予定者数)
寄付金	0	0	0	
雑収入	1,178	811	367	預金利息
繰越金	1,269,822	1,395,189	△125,367	前年度繰越金
合 計	1,757,000	1,936,000	△179,000	

項 目	令和7年度予算額	令和6年度予算額	比較残額	摘 要
会議費	15,000	15,000	0	常任幹事会
総会費	150,000	150,000	0	総会準備金(令和7年度同窓会総会幹事団へ)
通信費	70,000	70,000	0	切手、葉書
旅 費	150,000	150,000	0	関東支部総会、近畿支部総会参加
領受管理費	66,000	66,000	0	(株)広済堂ネクストへ
渉外費	100,000	100,000	0	
備品費	0	0	0	
需用費	250,000	250,000	0	会報印刷、卒業記念品(印鑑)、振替手数料等
慶弔費	50,000	50,000	0	表彰者記念品
母校援助費	50,000	50,000	0	学校、生徒への還元
積立金	300,000	300,000	0	同窓会積立金会計へ繰出
予備費	556,000	735,000	△179,000	
合 計	1,757,000	1,936,000	△179,000	

(必要に応じて項目間の移入を認める。)

令和6年度 同窓会積立金会計決算書

項 目	予 算 額	収入済額	支出額	差引残額	摘 要
繰越金	5,600,000	5,600,000	0	5,600,000	平成22・24～令和5年度積立金
積立金	300,000	300,000	0	300,000	令和6年度本会計から
合 計	5,900,000	5,900,000	0	5,900,000	

令和7年度 同窓会積立金会計予算書(案)

項 目	令和7年度予算額	令和6年度予算額	比較増減	摘 要
繰越金	5,900,000	5,600,000	300,000	平成22・24～令和6年度積立金
積立金	300,000	300,000	0	本会計から繰入
合 計	6,200,000	5,900,000	300,000	